

# 目 次

まえがき v

## 第1章 「事柄のありよう」としてのモダリティ …………… 1

1. はじめに 2
2. 主体, 場面, 素材 11

## 第2章 モダリティの体系から見た英語法助動詞の多義性 … 17

1. モダリティの体系—認識的モダリティと根源的モダリティ— 18
2. 多義性 19
3. 認識的／根源的という二分類の一般性 28
4. 認識的モダリティと根源的モダリティの違い 30
  - 4.1. ボイス性（能動態／受動態）とモダリティ 30
  - 4.2. 推論性とモダリティ 33
  - 4.3. 条件性とモダリティ 39
  - 4.4. 否定のスコープとモダリティ 43
    - 4.4.1. はじめに 43
    - 4.4.2. 根源的モダリティと否定 43
    - 4.4.3. 認識的モダリティと否定 45

## 第3章 モダリティの拡大と深化 …………… 51

1. Palmer による分類 52
2. より細かなモダリティ分類に向けて 60

2.1.	はじめに	60
2.2.	是認的モダリティ	60
2.3.	自発的モダリティ	62
2.4.	感情的モダリティ	63
2.5.	願望的モダリティ	64
2.6.	仮想的モダリティ	64
2.7.	存在的モダリティ	66
2.8.	兆候的モダリティ	67
2.9.	まとめ	75
3.	未来性とモダリティの間—予測 (= 単純未来) の will をめぐって—	77
4.	おわりに	82
第4章	モダリティへの語用論的アプローチ	87
1.	はじめに	88
2.	認識的モダリティ	88
3.	現実性	89
4.	時間性	92
5.	因果性	93
6.	現在性	97
7.	おわりに	99
第5章	モダリティの相関性	101
1.	モダリティの相関性	102
2.	条件文	103
3.	条件節の事柄と主節のモダリティとの相関関係	111
4.	that/for 節	119
5.	分詞節	124

## 第6章 モダリティと動機づけ

— 相関性の観点から — ..... 129

1. はじめに 130
2. 義務的な心的態度とその表現 133
3. 義務表現の意味構造 135
4. 義務づけのための動機づけ 136
5. 動機づけの内在化 138
6. 英語の義務表現と動機づけ 139
7. 多義性 141
8. 好ましい動機づけと好ましくない動機づけ 146
9. 発話の三領域と動機づけ 149
10. おわりに 152

## 第7章 モダリティの透明化

— 束縛的 have to を中心として — ..... 153

1. はじめに 154
2. モダリティの解釈と透明化 156
  - 2.0. テンス・アスペクト・モダリティの転移効果 156
  - 2.1. 現在形 157
  - 2.2. 未来形 158
  - 2.3. 完了形 161
  - 2.4. 進行形 164
  - 2.5. 未来進行形 166
  - 2.6. Be Going To 形 167
  - 2.7. 法助動詞 + Be + 進行形 167
  - 2.8. 仮想形 169
3. 含意 170
  - 3.1. 含意述語 170
  - 3.2. 含意 170
  - 3.3. 否定 172
  - 3.4. モダリティ 173

## 4. おわりに 175

参考文献 ..... 179

索引 ..... 189